

# 「環境未来都市」構想 高齢者にやさしい街づくり

上海市社会科学学院

左学金

「環境未来都市」構想推進国際フォーラム

2012年2月21日、東京

- ・ 出生率減少と平均寿命の伸びのため、世界人口は急速に高齢化している
- ・ 環境未来都市は、活動的で健康な老後を推進するため備えを進めるべき
- ・ 世界保健機構(WHO)は、活動的で健康な老後を支える都市環境の要素を特定するプロジェクトを2006年から実施。(WHO全加盟地域から)22カ国33都市がこのプロジェクトに参加している

- ・ プロジェクトは2007年に終了。都市の「高齢者へのやさしさ」を評価する枠組みを示した「グローバルな高齢者にやさしい都市—指針」を公表した
- ・ 都市の高齢者へのやさしさの全体像を示すため、フォーカスグループでは次の8つのテーマを検討した

1. 屋外空間・建物
2. 交通
3. 住宅
4. 社会参加
5. 尊重・社会的包摂
6. 市民参加・雇用
7. 情報通信
8. 地域社会支援・保健サービス

- ・ ここではWHOの方式に沿って、環境未来都市をより高齢者にやさしいものにするための課題を論じる
- ・ 都市レベル、地域社会レベル、家庭レベルの3つに分けてプレゼンを行う

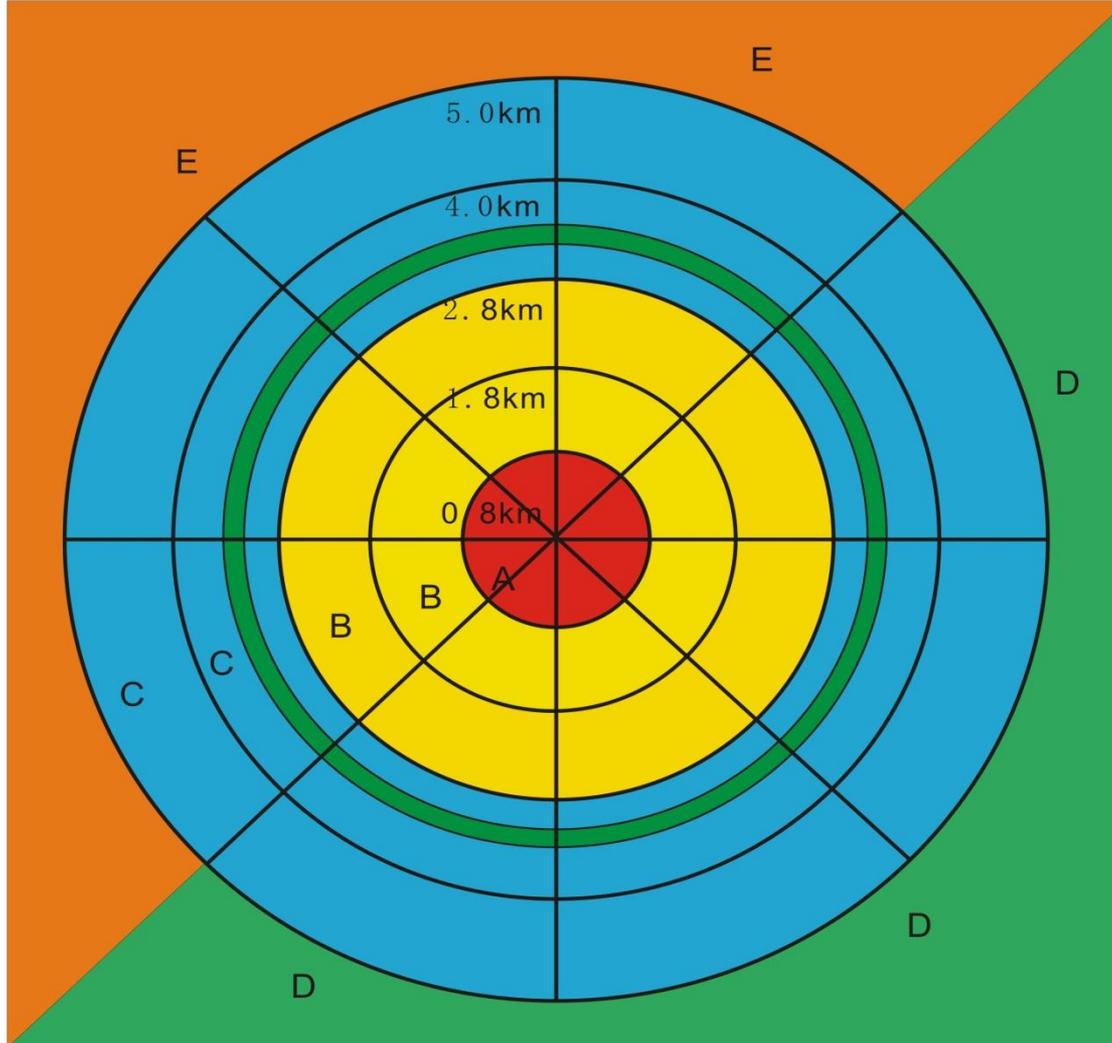
# 高齢者にやさしい街づくり: 都市レベル

- ・ 活動的な老後を促すため、都市をコンパクトにすべき。これにより高齢者が、交通機関や職場、保健サービスその他の場所にアクセスしやすくなる
- ・ 北米に戦後生まれた低密度市街地や、中国都市部の新規開発市街区は、高齢者のニーズを満たせない

# コンパクトシティの概念

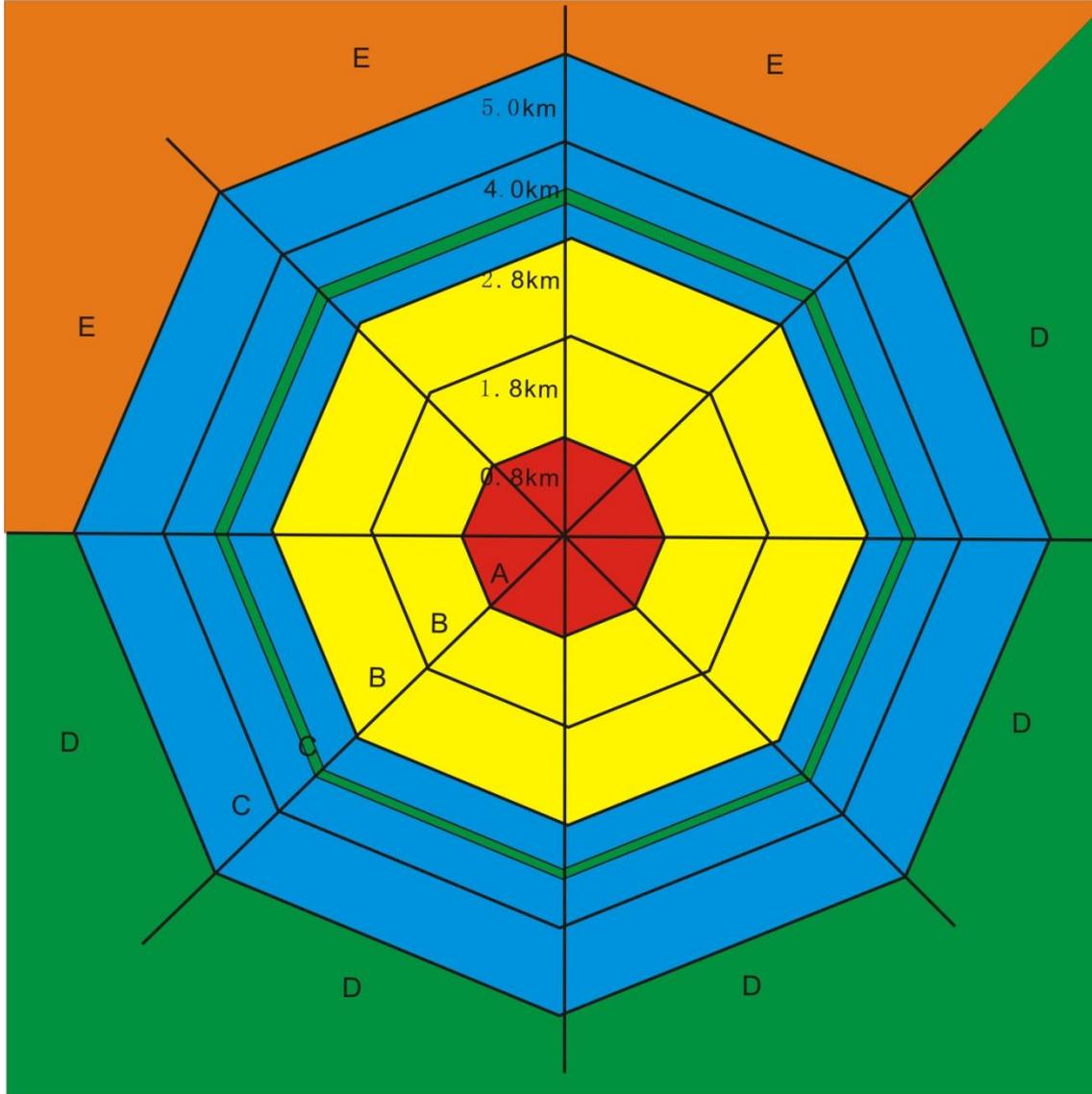
- ・ コンパクトシティとは、土地の多目的利用により比較的高い住宅密度を促す、都市計画・都市設計上の概念である
- ・ 効率的な交通システムを基盤として成り立ち、徒歩・自転車利用、低エネルギー消費、汚染削減を推進する都市設計となっている。居住人口の多さから、社会的関わりの機会や安心感が得られる  
(Wikipedia「コンパクトシティ」)

- ・ サー・エベネザー・ハウードの田園都市論に基づき、私は同僚とともに、新たな田園都市構想をいくつか提案した。約100万人の住民を擁する、従来よりはるかに大きく一層コンパクトな都市となっている
- ・ 都市レイアウト案を3種類、以下に示す



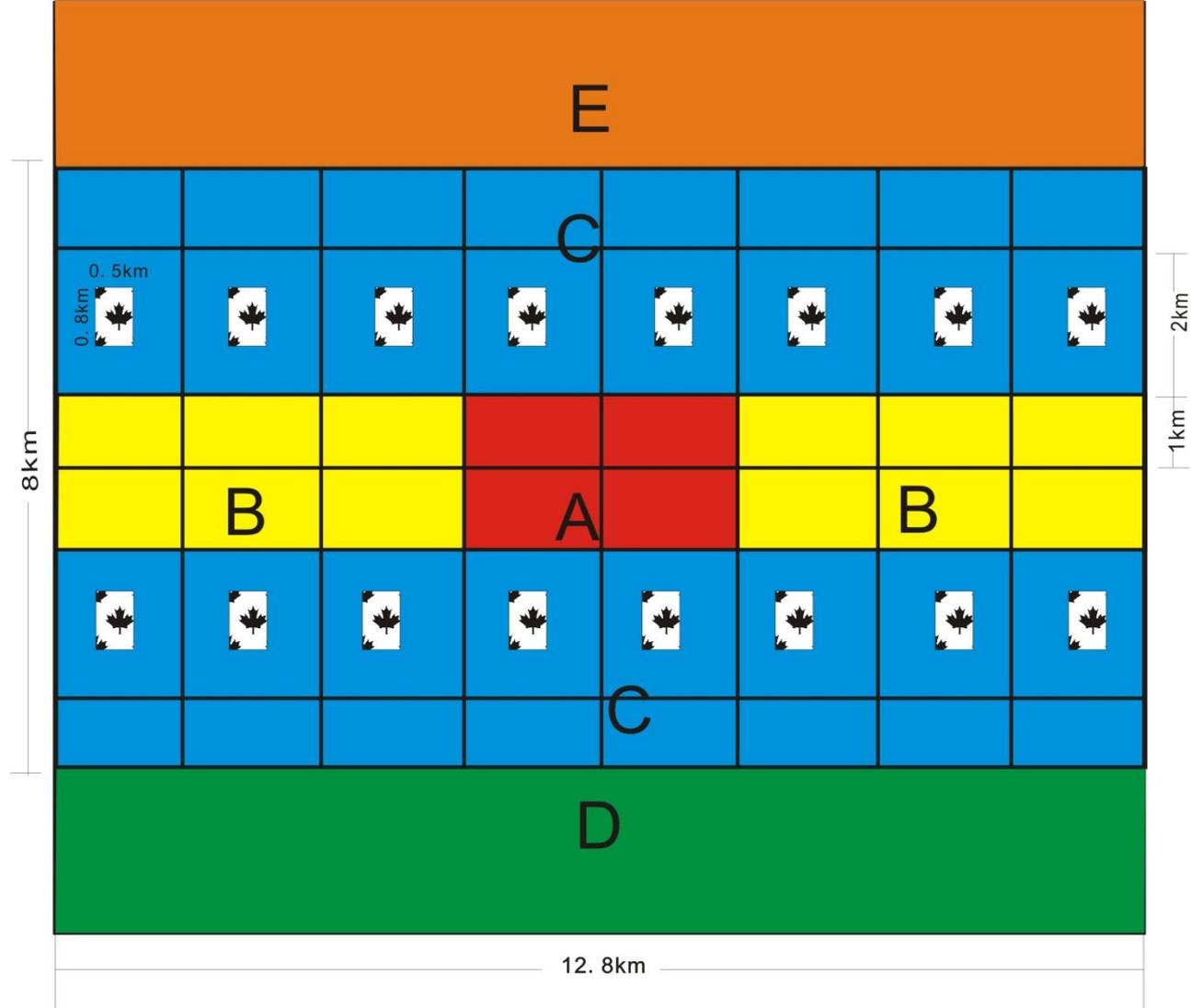
### 城市功能区：

- A. 中心商业/文化/娱乐/会展/行政中心;
- B. 商务区及其配套服务，如宾馆/会议设施/餐饮/社交等配套设施;
- C. 住宅区及其配套服务，如零售/餐饮/其他生活服务/中小学教育/初级医疗保障/文化休闲健身/绿地；
- D. 大卖场/体育场馆/郊野公园等，三级医疗/三级教育/科技研发和服务业园区/清洁制造业园区/城市生活供水；
- E. 发电/燃气/污水/其他废弃物处理/有污染的制造业园区。



**城市功能区：**

- A. 中心商业/文化/娱乐/会展/行政中心;
- B. 商务区及其配套服务，如宾馆/会议设施/餐饮/社交等配套设施;
- C. 住宅区及其配套服务，如零售/餐饮/其他生活服务/中小学教育/初级医疗保障/文化休闲健身/绿地；
- D. 大卖场/体育场馆/郊野公园等，三级医疗/三级教育/科技研发和服务业园区/清洁制造业园区/城市生活供水；
- E. 发电/燃气/污水/其他废弃物处理/有污染的制造业园区。



**城市功能区:**

- A. 中心商业/文化/娱乐/会展/行政中心;
- B. 商务区及其配套服务, 如宾馆/会议设施/餐饮/社交等配套设施;
- C. 住宅区及其配套服务, 如零售/餐饮/其他生活服务/中小学教育/初级医疗保障/文化休闲健身/绿地;
- D. 大卖场/体育场馆/郊野公园等, 三级医疗/三级教育/科技研发和服务业园区/清洁制造业园区/城市生活供水;
- E. 发电/燃气/污水/其他废弃物处理/有污染的制造业园区。

# 高齢者にやさしい街づくり: 地域社会レベル

- ・ 地域社会レベルでは、住居と社会活動に必要な多様な施設/サービスをミックスした都市計画を行うべき
- ・ 高齢者にやさしい地域社会に関する私の以下の考察は、コンパクトシティの概念に加え、ニューアーバニズムおよび伝統的近隣住区開発(TND)の考え方に触発されている

# 高齢者にやさしい地域社会の 提案例

- ・ 土地面積: 1平方キロメートル (100万平方メートル)
- ・ 建蔽率は33%以下
- ・ 地域から最寄りの駅/停留所までの距離は、最大1km未満 (徒歩約10分)
- ・ 建物の延べ床面積は300万平方メートル、うち200万平方メートルは住民約40,000人が住居として利用  
(1人当たり平均50平方メートル)

- ・ 残る100万平方メートルは、生活道路、公共空間、学校、高齢者用デイケア施設、その他のサービス施設・事業所に使用する
- ・ 道幅は狭くし、自動車・自転車の両方が走行できるようにする。ただし自転車優先とし、自動車には低めの速度制限を課す（たとえば時速15kmなど）

- ・ 道路の両側に、車道と分離した歩道を設ける
- ・ 交差点では、自動車・自転車ともに歩行者を優先する
- ・ 地下駐車場も用意すべき

- ・ 幼稚園、小学校、中学校および高齢者用デイケア施設を、地域内に設置する
- ・ 学校・デイケア施設の構造は、他の用途にも利用できるよう柔軟性を持たせ、需要の変化に応じて調整できるようにする

- ・ 生活能力の一部を失い日中介護を必要とする高齢者は、地域のデイケア施設で支援を受けられる。これにより、高齢者と家族・地域社会との社会的な結びつきが強まり、高齢者の心身の健康維持に役立つ

- ・ 私の研究チームは、武漢市のデイケア施設に強い感銘を受けた。この施設は素晴らしい仕事ぶりで地域の高齢者に介護・食事の提供を行っている
- ・ 費用節約のため、生活能力を完全に失い集中介護が必要な高齢者のみが、居住地から離れた場所にある介護施設に入所できる。ただしこの介護施設は、医療機関に近接していない

- ・ 病院に公的資金を投入し、地域病院が住民に低価格で医療サービスを提供できるようにする。人口高齢化と疫学的転換を踏まえると、健康な老後という目標達成のためには、地域社会による予防ケアの強化が極めて重要になる

- ・ 地域保健サービスの実績を、治療に要した作業量でなく地域住民の健康指数に基づき評価できれば、より効率的だろう
- ・ 地域保健サービスに対し、サービス提供モデルの革新を促すべきである。たとえば健康に関する最新知識の提供、健康的な食事・ライフスタイルの推進、運動指導/訓練など、新たな要素を保健サービスに導入する

- ・ 図書館・文化施設・ジム・公園を含め屋内外に十分な公共空間を住民に提供し、高齢者を含めた住民が、地域内で社会的・文化的・その他の活動に参加できるようにする
- ・ 設計時に、郵便局や食料品店、レストラン、カフェ/喫茶店、美容室その他を設置するスペースも確保しておく。こうした施設をつくることで住民の消費需要にワンストップで対応でき、地域の住民全般、とくに高齢者に雇用機会が生まれる

# 高齢者にやさしい街づくり: 家庭レベル

- ・ 超低出産率(女性1人あたりの出生数1.3以下)に伴い、今後「空の巣」世帯(高齢者のみ世帯)の数が増えるだろう
- ・ 環境未来都市では、高齢者が子どもや地域社会から孤立し、孤独や抑うつを感じるのを防がねばならない

- ・ 住宅設計時には、アパートの規模や構造の点から、異なる年齢集団/世代の世帯の入居を促す必要がある
- ・ そうすれば、子どもが成人後に同じ敷地内のアパートや同じ地域など、両親の近くに住めるようになる
- ・ 高齢者と若年層の共生により、高齢者に必要なサービスの提供も促される

ご意見をお待ちしています！

ありがとう

ございました！